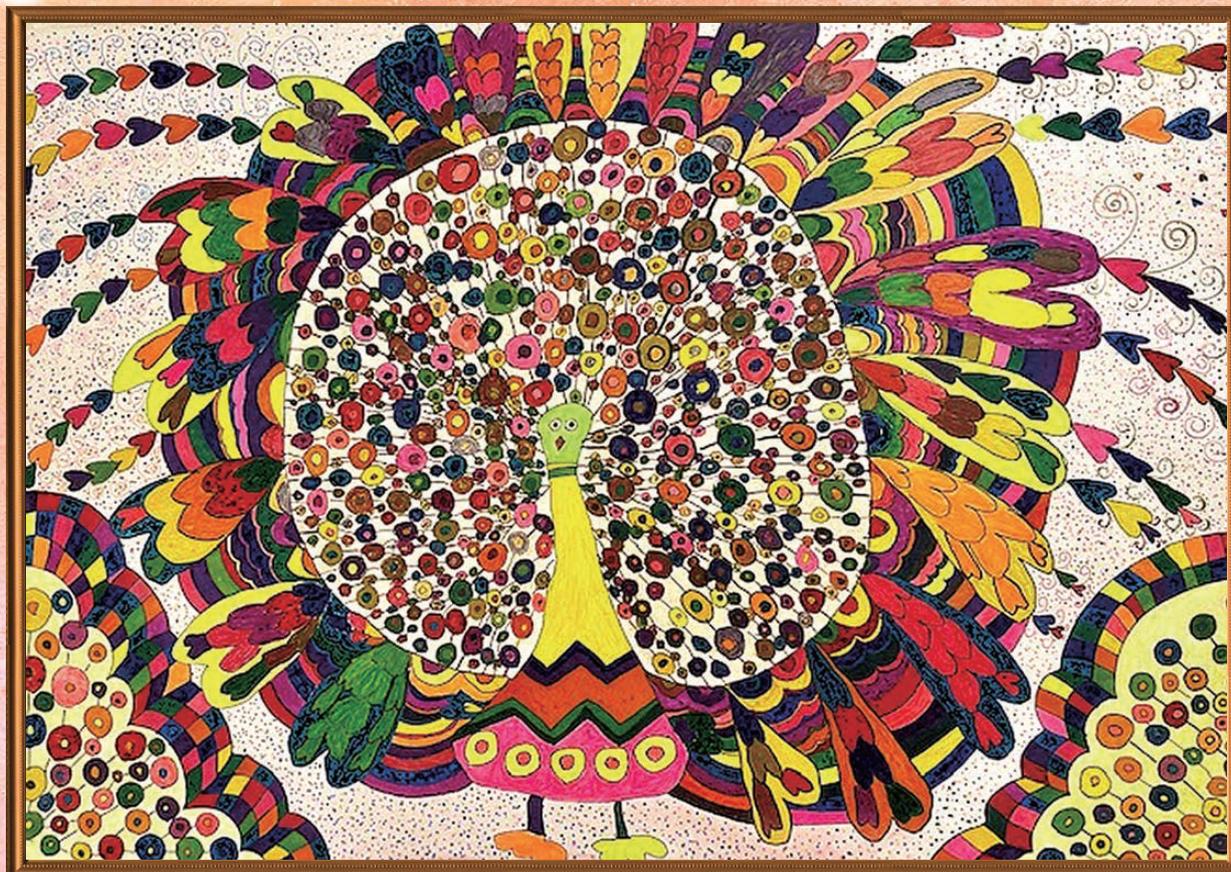


長尾福社会報

令和6年10月1日

第50号



「くじゃく」のぞみ園 小倉優香 作

—長尾福社会理念—

障害をもっているも もっていないも 男も女も

「生まれておめでとう・成長しておめでとう・長生きしておめでとう」といえる
社会づくりをめざします。

ご 挨拶

日頃より、社会福祉法人長尾福社会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。私たちの法人は、地域の皆様とともに支え合いながら、より豊かで住みよい社会を築くための活動を続けてまいりました。これもひとえに皆様の温かいご支援の賜物であり、改めて心より感謝申し上げます。

近年、社会福祉を取り巻く環境はまた更に変化しており少子高齢化や地域コミュニティの変化、最近では災害への備えや災害時の対応にも福祉事業者として柔軟に対応していかなければならないと感じております。

私たち長尾福社会は来年で創設 30 周年を迎えます。今までの 29 年のあゆみを振り返りながら、これからも新たなニーズに応えるべく努力し、地域の皆様の安心と笑顔を守るため、誠心誠意取り組む決意をもって 30 周年を迎えたいと思います。

今後も、法人職員一同「人と人をつなぐ」役割を果たし、支援が必要な方々へきめ細やかなサービスを提供してまいります。引き続き皆様からのご指導とご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人長尾福社会 理事長 森田 浩之

社会福祉法人は、「社会、地域における福祉の充実・発展」に寄与することを使命とし、社会福祉事業の安定的・継続的経営に務めるとともに、多様な生活課題や福祉需要に柔軟かつ主体的に取り組む公共的・公益的かつ信頼性の高い法人です。

のぞみ園

女子寮

「一日のスタート・朝の会」

生活支援員 松岡 由江

毎朝のラジオ体操の後、女子寮では「朝の会」を行っています。立候補した利用者さんが司会をして、日付・昼食メニュー・出勤職員を発表します。最後に「今日も一日がんばりましょう。」と言うと、「エイエイオー！」と活気のある掛け声が寮内に響き渡ります。短時間ですが、楽しい気分で一日を過ごせるような有意義な時間になりたいと思います。



男子寮

「プール開き」

生活支援員 間島 義博

6月下旬、男子寮では利用者さんからの「暑い暑い」との声を受け、夏を先取ってビニールプールでの水遊びを開始しました。水鉄砲で水をかけ合ったり、足をつけてゆったり過ごしたりと思いいい時間を過ごしていました。蒸し暑い夏が終われば、短い秋の後に寒い冬がやってきます。厳しい季節の変化の中でも、皆さんと一緒にイベントや行事を計画することで季節を感じ、楽しんでいきたいです。



南寮

「三線の調べ」

生活支援員 谷本 久美子

7月25日（木）、南寮ではホールでミニコンサートを開催しました。コンサートの演目は沖縄民謡です。沖縄楽器の三線の得意な職員が、三線の美しい音色を奏で弾き語りをしてくれました。利用者さんも鈴やタンバリンを手に、演奏に合わせて音を奏でたり踊ったりとおおいに盛り上がりました。最後は「マツケンサンバ」で締めくくりましたが、「アンコール」の声も聞かれ、楽しいひと時を過ごせました。



通所・就労

「わくわく 春の遠足」

生活支援員 柴田 寿子

6月にレオマランチバイキングへ行きました。和洋中様々な料理が並ぶ中、皆さん目を輝かせながら盛り付けをされていました。好きな物と思う存分召し上がり、「おいしいね」と大満足の笑顔に、私も幸せな気持ちになりました。道の駅滝宮では、作業で携わった和三盆が売られており、「したやつやなあ」と嬉しそうに眺める姿も。皆さん思い思いのお土産を購入され、春の遠足が終えました。



お楽しみ給食「流しそうめん」

管理栄養士 久米 博仁

今夏は連日の猛暑日・各地の新型コロナ感染拡大が続く報道を見て、当施設両者も意気消沈しており、少しでも元気を取り戻してもらいたいと八月五日、土用の丑の日に合わせて中庭にて流しそうめんを計画しました。施設敷地内にある竹藪で竹を切り、節を取り、熱湯消毒も終わり、後は乾燥させ

本番を迎えるのみと意気込んでいましたが、施設内にて新型コロナ感染が再び猛威を奮い出し、残念ながら中止になりました。例年よりは少し豪華



なそうめん！皆さん喜ばれましたが、来年こそは中庭いっぱい流しそうめんができればと思います。



スポレク「今年はどんな運動会？」

生活支援員 立石 本子

6月11日(火)ツインパル長尾にて、毎年恒例の運動会を開催しました。今年はどんな運動会だったのでしょうか。いつも行っている「玉入れ」「綱引き」「パン食い競争」は今年も行い、綱引きでは、男性の多い南寮チームが女子寮チームに負ける番狂わせも…。そして今年初めて取り入れたのが「盆踊り」です。二つに分かれて大きな輪を作り、うちわを持って「いちごまいた」を踊りました。保護者・職員の中には踊りを覚えている方も多く、親子で歌に合わせて踊りを楽しむ姿もありました。今後も続けていきたい行事の一つです。



のぞみ児童デイサービス事業所

「夏休みグループ活動」

保育士 遠山 睦美

今年の夏休みは、みんなで水遊びや夏まつり遊び、外食やおでかけなど、様々な活動を楽しみました。バスに乗ってこどもの国へ遊びに行ったり、フードコートで食事をしたり、今まで経験のなかったこともとても楽しんで参加していました。

また、児童デイに新しく芝生ひろばができました。夏休み中は熱中症警戒アラートが出て外に出られる機会も少なかったですが、これからは戸外で遊ぶ機会も増やし、みんなで楽しく過ごしていきたいと思っています。



ゆたか荘

納涼夏祭り 介護副主任 大池 庸司

5年ぶりにご家族参加の納涼夏祭りを開催しました。提灯や紅白幕など飾りつけるたびにご利用者の期待が高まります。当日は朝からそわそわと落ち着かない様子であり、いざご家族の顔を見るとニコッと喜ばれる笑顔が多く見られました。

昼食はバザー形式であり、ご家族と屋台をめくり久しぶりに一緒に食事を楽しまれていました。皆さん普段より食欲旺盛でたくさん召し上がられていました。

昼食の後はナチュラルトーン様の演奏を楽しみました。いつも見ているテレビと違って生演奏は迫力が違います。アンコールも含めて約1時間のステージはあっという間です。

久しぶりの盛大な行事に多くのご家族の参加もあり、楽しい時間を過ごしていただきました。



家族会

管理栄養士 河井 以知理

6月中旬に家族会を行いました。今回は移動販売を開催し、多くの方に参加いただきました。久しぶりのショッピングにご利用者も目を輝かせ、レジには行列ができて大盛況！『この服どうかい』『これ、美味しそうやけん買ってみようか』など会話も弾みます。どの方も、満面の笑顔でご家族との時間を過ごされていました。



のぞみを叶えよう

介護支援専門員 多田 明香

今年度よりご利用者の希望を叶える『のぞみを叶えよう』という取り組みを再開しています。内容としては「家に帰りたい」「美味しい物を食べたい」「買い物に行きたい」などの声が聞かれています。



これまでに買い物、お墓参りと外食、自宅周辺のドライブと4名ののぞみを叶えてきました。普段とは違う表情をされていて、どの方も気分転換が出来た様子でした。今後も楽しみを持ちながら過ごせるようにお一人お一人に寄り添い、のぞみを叶えていきたいと思えます。

菖蒲ドライブ

介護職員 瀧井 道明

6月3日から数日かけて亀鶴公園へ菖蒲ドライブに行きました。期間中は天候にも恵まれ、気持ちの良い気候の中、公園内を散策する事ができました。菖蒲の花もきれいに咲いており、ご利用者も『きれいだな』と笑顔で話されていました。また、おやつに持参した水ようかんを召し上がった際には『たまには外食べるのもいいね』と喜ばれていました。中には日頃はあまり交流がない方と会話弾んだりすると、普段とは違った環境の中で良い気分転換が図れていたように思います。



デイサービスゆたか

ご利用者に感謝を込めて 介護職員 木村 寿志

デイサービスに通ってくださるニーズの一つとしてレクリエーションをご用意、提供しております。特に人気のある足浴はご希望が多くあり、選択レクリエーションの一つとして毎月準備しております。皆様ご存じかと思いますが、足浴にはリラクセスする目的や効果があります。

心地良く自然と笑顔になり、また職員との関りや会話の時間が持てる大変楽しみにされています。

今後も皆様と過ごす時間を職員一同ニーズに応えながら、より良いレクリエーションの提供を考えて、双方が楽しめる空間創りを目指していきたいと思っております。



高齢者複合施設 ハーティヴィラ亀鶴

盛り上がり
ました!

お久しぶりの 納涼祭

ショートステイセンター・ケアスタッフ 寺島 理香
コロナ禍を経て、久々に賑やかな夏がハーティヴィラ亀鶴にも戻ってきました。

まずは演者の方にお越しいただき、お琴とピアノの演奏会。普段の生活で触れることの少ない楽器の音色に、ご利用者も職員もうっとり。どなたも知っている歌を、からだを動かしながら一緒に歌って楽しみました。

そして昔懐かし縁日のコーナーです。皆さん真剣な表情で挑戦され、景品をゲットできた時には満面の笑顔を見せてくださいました。

暑い夏の熱い時間を、楽しむことが出来ました。ありがとうございました。





認定こども園 高松くりの木学舎

楽しく食べる第一歩

管理栄養士 太田 麻里子

「まんまー」0歳児のひよこ組さんは、お昼の給食を運ぶ私たちの姿を見るやいなやこっぴどく呼んでくれます。「ごはんがきたよーうれしいなーと伝えてくれてるようですよ。」

現在ひよこ組さんでは、生後3ヶ月から1歳5ヶ月の子どもたちが生活しており、ミルクや離乳食を提供しています。子どもたちは、離乳食をひとさじ、ひとくち食べることに複雑な摂食嚥下機能を習得し、約1年をかけて大人の食事に近づき、手づかみ食べや食卓を使って自分で食べることに慣れていきます。園では、いろいろな食材を経験することに加えて、子どもたちの発達にあった安全な食事を提供するために、家庭、クラス、給食室が「離乳食連絡ノート」を使って情報を交換し合い、食べる様子を確認しながら離乳食を進めています。これからの食生活が豊かで楽しいものでありますように、子どもたちのペースを大切にしながら「食べる力」を育てていきたいと思います。



初めての試み、母子登園

ひよこ組(0歳児) リーダー 高橋 幸



令和6年度、0・1歳児の新人園児より、慣らし保育の母子登園を取り入れました。0歳児では4月に11名の新人園児を前半6名・後半5名に分かれ、2日間に渡り45分ずつの母子登園をしました。

毎年慣らし保育の初日は不安から泣く子どもの声が多くありましたが、保護者と一緒遊びながら担当保育者とふれ合うことで、初めての環境である保育室の中を探索したり、玩具で遊んだりと落ち着いて遊ぶ姿が見られました。保護者には、保育室の様子や月齢に合った玩具で遊ぶ姿を見て頂き、担当保育者と家庭でのお子様の様子について細かく話し合う機会が取れ、保育をする参考になりました。保護者同士では困りごとや子どもの姿について話し合う交流の機会となりました。

3日目からは母子分離を行いました。2日間親子で過ごした保育室に喜んで登園する子や、泣きながらも前日に遊んだ玩具を見つけて手を伸ばしてみようとする子、これまでの慣らし保育よりも子どもの不安な気持ちが和らいでいるように感じました。生まれて初めての集団生活で、初めての経験をたくさんする子どもたちの気持ちに寄り添った保育を考え、これからも実践していきたいと思えます。



子どもも大人も楽しい経験を 親子講座

副園長 津崎 なお

今年度から、希望される家庭を対象にした「親子講座」(毎月土曜日1回)を開催しています。8月は日本赤十字社香川県支部のインストラクターの方々をお招きし、「救命講習」を行いました。成人のAED講習は受けたことはあっても、乳幼児の第一次救命処置を学べる機会はありませんとの思いからです。実際講習を受けてみると知らない事がたくさんあり、わかりやすい説明とともに実践することができ、とても学び深い時間になりました。保護者の方々の「いざという時、子どもの命を守りたい」気持ちやさまざまな場面から伝わってきた、私たちも園での訓練や正しい知識の習得に日頃から取り組んでいく責任があることを改めて確認しました。年長の子どもたちも参加し、実際にベヒー人形を使って胸骨圧迫の方法を経験したり、学ぶ大人の様子を見て命の大切さもなんとなく感じ取ってくれたらいいなと思います。

クラスを超えていろいろな人と交流しながら、楽しく遊ぶ・学ぶ・経験することを通して、保護者の皆様も、リフレクティブしたり子ども新たな一面を発見したり、日々の子育ての活力になることを願って、私たちもワクワクしながら計画を立てています。



たのしいね! 夏の遊び

そら組(3歳児) リーダー 岡田 光代

子ども達は毎日、泥遊びに色水遊びと様々な夏の遊びに奮闘中! 砂場では、色々な長さの雨どいを使って水のトンネルを作り、いろいろな物を使って水を流したり、出来た水たまりに足を入れてびちゃびちゃドロドロになるのを楽しんでいたりしています。部屋では、片栗粉スライムや、氷や水風船を使ったお絵かきをしました。絵具を付けた水風船で、大きな紙の上に絵を描いた時には「〇ちゃん、転がすよー」と、ダイナミックに紙の上を転がしてきた線に「高速度路ができたー」と大喜び。「ポンポンってうさぎさんだよ」見ると水風船を弾ませてきた跡を、うさぎの足跡だと表現していました。子ども達はいろいろな試しながら面白いことを見つけて教えてくれます。「あー面白かった。」「今日はいっぱい遊んだからお昼寝いっぱいしたわ」と子ども達の心からの言葉が聞かえてくると、私たち保育教諭の心も嬉しい気持ちでいっぱいになります。遊びの中で、それぞれが面白いことを見つけて、考え工夫すること、自由に感じたことを表現することができる子ども達に育ってくれていることを嬉しく思っています。





認定こども園 長尾學舎



初めてのゆたか荘訪問

主幹保育教諭 直原 美香

6月12日(水) ぎんが組(5歳児)がゆたか荘を訪問し、歌と体操を披露しました。初めての訪問に子どもたちは「できごきする」「できるかな」と緊張している様子。

歌「にじ」では、手話をしながら、後ろのご利用者にまで聞こえるように大きな声で歌いました。体操では、友達と顔を見合わせながら手を高く上げたり、両手を元氣よく前後に振ったりと楽しみながら体を動かしました。ゆたか荘のご利用者からの温かい眼差しや声援が子どもたちの自信に繋がったことと思います。帰りのバスでは、保育教諭に「次はこんなことを一緒にしたら楽しいんじゃない?」と話しかけながら、また訪問する日を楽しみにしている様子でした。



パシャパシャ気持ちいいね!

たいよう組(1歳児) 筒井 友理

6月、子どもたちが楽しみにしている水遊びが始まりました。水着に着替えて準備が出来ると、窓越しにタライの水を指さし「あっち、行く」と待ちきれない様子の子どもたち。最初は、少し離れたところから様子を見ていた子ども、友達や保育教諭が水鉄砲やじょうろを使って楽しそうに遊んでいる姿を見ると、少しずつタライに近づき、そーっと手を入れて、水に触ろうとする姿が見られました。何回も遊びを繰り返すうちに水にも慣れて、水面をパシャパシャと叩いて水しぶきが上がるのを、「キヤーツ」と声を上げながら喜んでいました。

水の気持ち良さを十分に感じながら、夏を楽しみました。



給食いっぱい食べられるよ!

にじ組(2歳児) 壬生 智香

6月15日(土)に給食・保育参観がありました。子どもたちは、「お父さん、お母さんが来るんだよ!」と朝からソワソワ、嬉しそう。2歳児クラスでは、「朝の集まり」を参観して頂いた後、ハサミを使った魚の製作を親子で楽しんでもらいました。そして、子どもたちの大好きな給食の時間。少し恥ずかしそうにしたり「食べさせて」といつもよりちょっぴり甘いん坊の表情を見せてくれたりしました。「こんなに野菜が食べられるなんて驚きました」という保護者の声も聞こえてきました。園生活を見て頂ける良い機会となりました。



楽しかった親子遠足

つき組(4歳児) 松原 早紀

5月17日(金)に、3~5歳児が歩いて亀鶴公園へ行きました。親子で手を繋いで歩くことで期待が高まり、あつという間に到着。レクリエーションのジャンケン列車は、3歳児は、保護者にジャンケンを教えてもらいながら一緒にすることを楽しんでいました。4歳児はいつもより長い列になっているのを見て「すごい。ながいよ」と喜び、5歳児は先頭の子を友達も保護者も一緒になって応援して、とても白熱していました。各年齢でレクリエーションは盛り上がり、親子で触れ合う時間の大切さを改めて感じる事ができました。また、自分たちの住んでいる「長尾」の自然と触れ合うこともでき、とても良い機会となりました。



たけのこ たくさんとれたよ!

ぎんが組(5歳児) 西島 咲良

4月17日(水)に、ぎんが組(5歳児)がたけのこ掘りへ行きました。法人の職員にたけのこの掘り方を教えてもらい「いっぱい掘るぞ!」とやる気満々な子ども達。臆することなく山道を進み、地面の葉を足や手でかき分けながら夢中になってたけのこを探していました。「こっちにあったよ!」と知らせたり、一緒にスコップで掘り起こしたりと、友達と協力することで40本のたけのこを収穫することができました。

帰りのバスでは、「何のご飯にするん?」「たけのこご飯がいいな」と、お家の人に作ってもらおう美味しーいご飯の話で盛り上がる子ども達でした。



